

# 党中央政治局集団学習の概要

田中 修

## はじめに

新華網 2014 年 7 月 11 日は、実態が分かりにくい党中央政治局集団学習の概要について紹介している。

## 1. 制度の概要

この 12 年間で、160 名余りのトップ・先端の専門家・学者が中南海の教室に登壇し、講師となっている。

学習制度は 2002 年に設けられ、2014 年 7 月 11 日までに 93 回開催された。平均すると、40 日余りの間隔で 1 回講義が行われていることになる。

毎回の学習時間は 120 分であり、通常は 2 名の講師が連帯して講義を行う。各講師の講義時間は 40 分であり、30 分を討論・質疑にあて、総書記が総括発言を行う。

## 2. テーマ

テーマは極めて広範囲に及んでおり、経済・三農・生態文明・社会保障・雇用・医療・教育・文化・科学技術・外交・軍事・法制にわたる。中でも経済の話題が最も多く 30 回余りとなっており、経済のテーマとしては、財政・税制改革、構造調整、金融体制改革、市場の資源配分、経済成長方式の転換等がある。

第 18 期中央政治局集団学習で登場した新たな 4 つのテーマとしては、①生態文明建設、②海洋強国の建設、③住宅問題、④国家安全がある。

## 3. 場所

教室は、中南海懷仁堂である。

聴講者は、中央政治局常務委員のほか、党中央・国務院の関係機関の責任者及び各部・委員会の指導者が含まれる。

## 4. 講師

年齢は 40－55 歳の間で、更に若年化の傾向にある。

少なくとも半数以上は、海外留学あるいは海外訪問学者に任じられた経歴をもつ。

所属は、国内各大学、党校、科学院、党政機関研究室、軍隊の学院・大学・研究機関、及び一部の業種の学会である。

これを機関別に多い順にみると、

①中国社会科学院 31 名

- ② 国務院發展研究センター 13名
- ③ 国家發展改革委員会マクロ經濟研究院 11名
- ③ 中国人民大学 11名
- ⑤ 中央党校 8名
- ⑤ 軍事科学院 8名
- ⑤ 清華大学 8名
- ⑧ 北京大学 5名

このほか、中国農業大学、中国科学院も農業・科学技術等のテーマについて講義に何度も参加している。

## 5. 講義内容の確定

次の手順で行われる。

- ① 中央領導集團の学習は、中央弁公庁が主たる責任を負って組織され、中央政策研究室がテーマ選定につき責任を負う。
- ② 関係部・委員会、関係科学研究機関は、主任講師の選定・講義原稿の作成等具体的作業の責任を負う。
- ③ 講義原稿の内容は、主としてある分野の知識・理論であり、構成は基本的に歴史と現状、問題と対策建議である。
- ④ テーマの選定から正式の講義まで、主任講師の準備期間は様々であり、一般に3-4カ月である。
- ⑤ 中央弁公庁と中央政策研究室が、最終的に原稿を確定する。

## 6. 習近平指導部による刷新

新指導部の就任以後、16回の集團学習が組織された。そこには新たな特徴がみられる。

### (1) 中南海の外に教室を移動している

現場に向いて学習し、学習内容と現場の実際を結びつけ、学習方式・方法においても改善・刷新に努力している。

#### (例) 2013年9月30日 第9回集團学習

- ① 場所：北京市中関村国家自主イノベーションモデル地区
- ② テーマ：「世界の科学技術イノベーションの發展動向を鋭敏に把握し、イノベーション駆動による發展戦略を確実にしっかり実施する」
- ③ 内容：イノベーションの成果の展示を組織的に参観し、現場で中央政治局集團学習を進めた

### (2) 集團自習

今期の中央政治局の16回の集團学習のうち、2回は集團自習であった。学習形式は、習

近平総書記が主催して講話を發表し、その他の中央政治局構成員が討論・發言するというものである。

幹部の知識構造・知識水準の向上に伴い、招聘学者による講義のほか、自習も1つの方向となっており、これはつまるところ、①ハイレベルの指導者相互間の民主的な学習・討論、②公共政策の制定にとって積極的な意義を有し、③中国の将来の發展方向の把握にとっても非常に積極的な意義を有するものである。

**(例1) 2012年11月17日 第1回集団学習**

テーマ：「18回党大会精神の学習」

**(例2) 2014年5月26日 第15回集団学習**

テーマ：「資源配分における市場の決定的役割の發揮と政府の役割のより好い發揮」

**(3) 部長レベルの役人が講師となっている**

今期中央政治局の16回の集団学習において、多くの部長レベルの役人が講義を行っている。学習形式は、講師となった役人が自身の実際の活動情況を紹介し、中央政治局構成員が討論・發言を行うものである。

18回党大会以降、わが国のミドル・ハイレベルの役人のうち、多くがいずれも専門家出身となっている。これらの役人がそれぞれ自己の分担所管する分野の情況を紹介し、異なる側面から各方面の情況・考え方を反映させることも1つの好い形式である。

**(例1) 2013年1月28日 第3回集団学習**

①テーマ：「平和發展の道を断固として歩む」

②講師：外交部 楊潔篪部長（当時）

党中央對外聯絡部 王家瑞部長（当時）

**(例2) 2013年2月23日 第4回集団学習**

①テーマ：「法に基づく治国の全面推進」

②講師：全人代常務委員会法制工作委员会 李適時主任

最高法院 沈德咏副院長

**(例3) 2014年6月30日 第16回集団学習**

①テーマ：「作風・制度建設の強化・改善」

②講師：党中央組織部 陳希常務副部長

河北省党委員会 周本順書記

(7月14日記)